

平成 13 年 11 月 21 日

各 位

会 社 名	石原産業株式会社
コード番号	4028
問 合 せ 先	常務取締役 管理本部長 藤田 勝
	TEL(06)6444-1850

### 石原産業(株)国内農薬事業で FMCと業務提携

石原産業(株) (代表取締役社長 溝井正彦)と米国 FMCコーポレーション(本社フィラデルフィア)は、日本における両社の農薬事業について、広範囲に提携することで合意に達した。

石原産業は国内においては、石原バイオサイエンス株式会社を通じ事業展開を行っているが、今回のFMC社との提携合意により、同社の持つ農業用化学製品(農薬)および生活環境製品(白アリ防除剤等非農業用製品)を石原産業のバイオサイエンス事業に統合する。

日本においては、マルチナショナル各社が独自の事業展開を推進する大きな流れの中にあって、石原産業は、特長ある研究開発を重点指向し、事業ビジョンを共有できるメーカー同士が国境を超えて広範な提携関係を確立したことは、国内農薬市場における新たな戦略といえる。

新しい提携のもとでの農薬事業は、2002年1月1日より石原産業の主体性のもと運営されるが、FMC剤については、FMCの製品戦略を生かし石原バイオサイエンスの組織を通じ、開発・登録・製剤・普及・販売が推進される。

石原バイオサイエンスは、FMCの生活環境製品についても新規開発製品を含め開発・登録・製剤・普及・販売を推進し、新たな事業分野への進出を実現する。

この提携を機に、石原バイオサイエンスは、3年以内には現在の売上高の倍増となる200億円を実現する。その一環として農業用途を扱う農業化学品営業本部と白アリ防除剤等を扱う生活環境製品営業本部を新設した。

尚、FMC社より1名の取締役、若干名の技術、営業スタッフを受け入れる。

石原産業は、現在、世界の農薬ビジネスを21世紀の最初の10年間で倍増する“第二次成長期”（第一次成長期は1990年に始まる10年間である）に挑戦している。

世界の農薬市場は、巨大マルチナショナルによる寡占化が進み、競争は一段と激化しているが、販売のみならず市場情報も寡占化が進んでいる。石原産業は、そのような世界市場にあって自らの政策戦略のもとで主体性を発揮するために、既存剤についてはマルチナショナルとの従来の提携関係を良好に維持しつつ、新規剤については、その剤の可能性を最大限に活かすため市場ごとに最適なパートナーとの業務提携による自主推進に取り組んでいる。

その第一弾として、さる9月に、石原産業は欧州における自主推進の為のビジネス・プラットフォームを設置すべく布石を打ってきている。その一部として、石原産業とFMCは、ベルシム・クロップ・プロテクション（ベルギー）への増加した株式参画により達成されるであろう。東欧においては石原産業は、最近セラノバ社への新たな出資を実行した。

米州においては、FMCとの自社開発の新規殺虫剤IK I-220のスペシャリティ分野を含む開発、販売に係わる業務提携に合意した。

更に、年内にはブラジル、中国においても新たな自主推進体制を構築することを企図している。

世界第二位の農薬マーケットである日本における今回の石原産業とFMCの業務提携は、両社の農薬事業の世界戦略にとって大きな意義をもつものである。

以上